

令和6年度
発生予察情報

発生予報第 11 号 (概要版)

令和6年 11 月 22 日発行
宮城県病害虫防除所
(TEL:022-275-8982)

品目	病害虫名	発生予報	病害虫名	発生予報
秋まき ほうれんそう	アブラムシ類	発生量: 平年並	ハダニ類	発生量: 平年並
いちご	うどんこ病	発生量: やや少	コナジラミ類	発生量: やや少
	ハダニ類	発生量: 平年並		

より詳しい内容は、下記ホームページでご確認ください。

宮城県病害虫防除所 <https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/byogai/>

次回、発生予報第12号の発行日は12月20日(金)の予定です。

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で

発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所 メルマガ
トップページ 登録フォーム

令和6年度 発生予察情報	発生予報第 11 号－秋まきほうれんそう－	令和6年 11 月 22 日発行 宮城県病害虫防除所
-----------------	------------------------------	-------------------------------

－12 月下旬までの発生予報と防除のポイント－

巡回調査:11 月 15、18 日

天候予報:仙台管区气象台 11 月 21 日発表

1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
アブラムシ類	－	平年並

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、寄生は確認されなかった。(/±)
- (2)高温乾燥が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/+)、降水量はほぼ平年並と予報されている。(/±)

病害虫名	発生時期	発生量
ハダニ類	－	平年並

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、寄生は確認されなかった。(/±)
- (2)高温が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高いと予報されている。(/+)

※ 予報の根拠（発生時期 / 発生量）

発生時期・・・(+):遅くなる要因 (±):平年並になる要因 (－):早くなる要因 (空欄):該当せず
発生量・・・(+):多くなる要因 (±):平年並になる要因 (－):少なくなる要因 (空欄):該当せず

2 防除のポイント

(1)共通事項

- ・病害虫の薬剤抵抗性発達防止のため、RAC コードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。
- ・薬剤については『宮城県農作物病害虫・雑草防除指針』を参考に選定する。
<https://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/miyagi>

(2)アブラムシ類

- ・吸汁による葉の変形や、多発時にはすす病を引き起こすため、周辺雑草の除草を行い侵入防止に努める。

(3)ハダニ類

- ・収穫適期を過ぎた株がほ場に残っていると発生源となりうるため、速やかにほ場から持ち出し適切に処分する。

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail:byogai@pref.miyagi.lg.jp

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で

発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所
トップページ



メルマガ
登録フォーム

令和6年度 発生予察情報	発生予報第11号—いちご—	令和6年11月22日発行 宮城県病害虫防除所
-----------------	----------------------	---------------------------

—12月下旬までの発生予報と防除のポイント—

巡回調査:11月15、18日

天候予報:仙台管区气象台11月21日発表

1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
うどんこ病	—	やや少

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発病は確認されなかった。(/ -)
- (2)胞子の発芽適温が20度前後であり、向こう1か月の平均気温は高く(/ ±)、日照時間はほぼ平年並と予報されている。(/ ±)

病害虫名	発生時期	発生量
コナジラミ類	—	やや少

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生地点率及び寄生株率は平年より低かった。(/ -)
- (2)高温が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高いと予報されている。(/ +)

病害虫名	発生時期	発生量
ハダニ類	—	平年並

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生地点率は平年よりやや高く(/ +)、寄生株率は平年より低かった。(/ -)
- (2)高温が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高いと予報されている。(/ +)

※ 予報の根拠（発生時期 / 発生量）

発生時期…(+) : 遅くなる要因 (±) : 平年並になる要因 (-) : 早くなる要因 (空欄) : 該当せず
発生量…(+) : 多くなる要因 (±) : 平年並になる要因 (-) : 少なくなる要因 (空欄) : 該当せず

2 防除のポイント

(1) 共通事項

- ・施設周辺及び施設内の雑草は害虫の発生源なので除草を徹底するとともに、ハウスサイド等の開口部に防虫ネット(0.4mm目合い)を設置する。
- ・病害虫の薬剤抵抗性の発達を防止するため、RACコードの異なる薬剤を組み合わせ、計画的なローテーション散布を行う。
- ・IPM体系による防除は下記を参照する。

※宮城県いちご IPM マニュアル 2019 年版(PDF:6,731KB) https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/res_center/ichigo-ipm.html

- ・天敵製剤や訪花昆虫を利用する場合は、影響日数に注意して使用薬剤を選択する。
- ・薬剤は『宮城県農作物病害虫・雑草防除指針』を参考に選定する。

<https://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/miyagi>

(2)うどんこ病

- 適切な温度管理やかん水、葉かき作業と予防防除を組み合わせ、発病予防に努める。

(3)ハダニ類

- 多くのほ場でスポット的な発生が見られている。多発してからの防除は困難なので、ほ場をよく見回り、発生初期に防除を実施する。
- 気門封鎖剤は、対象害虫にかかると効果が得られないため、植物体全体にムラなく散布するとともに、薬害が出やすいため、あらかじめ数株に散布して薬害の状況を確認する。
- 気門封鎖剤の多くはハダニ類の幼虫～成虫に効果を発揮し、卵には効果を示さないため、最初に気門封鎖剤を散布し、ハダニの卵が孵化した後に2回目以降の散布を行う(ハダニ類は25℃条件下で卵から3日程度でふ化、その後7日程度で成虫になる)。多発時は複数回散布する。
- 紫外光(UV-B)を葉の表と裏に照射することにより、うどんこ病だけではなくハダニ類の密度も抑制されるので、本ほにUV-B電球形蛍光灯を設置している場合は、ハダニ類の防除の一環として葉の裏にもUV-Bを当てるため花房受けに光反射資材の設置を行う。

※「普及に移す技術」第96号(令和3年発行)指導活用技術20「促成イチゴにおけるUV-B電球形蛍光灯と反射資材の併用によるハダニ類抑制効果(追補)」<https://www.pref.miyagi.jp/documents/20200/847341.pdf>

(4)コナジラミ類

- 主に葉裏にいるので、薬剤散布は葉の表だけでなく植物体全体にかかるように散布する。
- 多発すると排泄物(甘露)によるすす病を発生させるので、ほ場をよく見回り発生初期から防除を実施する。
- 本ほでラノーテープを用いる場合は、目安として、3ベッド(畝)毎に展張することで抑制効果が発揮される。
- ラノーテープは雌成虫が接触しないと効果が発揮されないため、作物の直上部に、設置が株から離れすぎないように草丈に合わせて展張する。使用基準は、10aにつき10～50㎡である(テープ200m～1000mに相当)。

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail:byogai@pref.miyagi.lg.jp

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で

発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所
トップページ



メルマガ
登録フォーム